

大使全書

全

第十類	一冊	三十九架止	函
-----	----	-------	---

国立公文書館

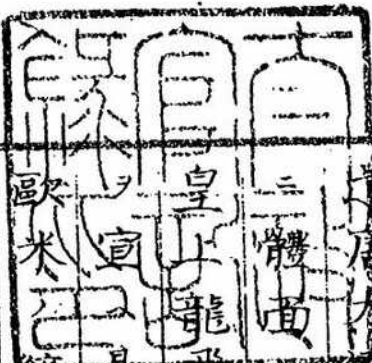
分類

2 A

33-6

排架番号

① 316



遣唐使ノ典ハ既ニ古シ大阿柄ヲ倒ニシテ外交ノ禮殊
ニ體面ヲ浼ス祇教禍ヲ防キ鎖國ノ令久ク國運ヲ縮ム
皇ノ龍飛政治豹變肇テ開國ノ規模ヲ弘ニシ文明ノ德化
宣ニ於テ明治四年辛未十月特命全權大使ヲ命レ
歐米諸國ニ遣シ即位以來ノ聘問ヲ修メ反正而後
ノ治體ヲ告ケ列國ノ公法ニ基キ獨立自主ノ國權ヲ全ク
シ交際ノ禮節ニ因リ和親貿易ノ友誼ヲ篤クス寔ニ無前
ノ盛旨ニレテ曠代ノ偉舉タリ夫アンバサトルヲ派遣ス
ルハ歐米輔車唇齒ノ諸國ニ於テモ猶希ニ有ル隆典ト稱
ス況ヤ我邦千古ノ廢典ヲ舉ケ一視同仁ヲ圖ルヤ故ニ
各省皆理事官ヲ擢拔シ隨行シテ文明諸國ノ文物ヲ觀察
廉訪セシム大使ノ至ル處各國ノ皇帝及ヒ政府人民ミナ

意シ加ヘテ優待敬遇シ益兩國ノ親睦ヲ厚クシ交際貿易ノ年ニ盛ナランヲ望マサルナレ其友誼ニヨリテ各國ニ其政法兵制工藝貿易ノ利害得失ヲ歷聘ノ餘ニ寓目檢察セシメ更ニ理事官ヲ導キ其節目ヲ詳告シ敢テ隱秘スル所ナレ是ヲ以テ衆員ニ其實ヲ筆記蒐録シテ以テ復命ス爾來國歩ノ進ニ裨益シ典ハ開明ノ運ニ效驗ヲ發シ之ヲ上ニシテ百寮師々ニナ文理密察ニシテ庶績咸熙リ之ヲ下ニシテ庶民欣々ニナ知識闡發シテ治化ニ暢達セシム其功モ亦昭々ナリ憶フニ方今四海兄弟ノ如ク越裳ノ九譯ヲ煩サハルモ千里外ノ人ヲ以テ千里外ノ地ヲ踏ミ殊俗ノ人ニ就キ絕域ノ情ヲ揅ル寒暑候ヲ異ニシ衣食嗜好殊ニシ其間必ス困難ニシテ頗ル苦辛ヲ要シタルヲ恐ラクハ意想ノ外ニアラン然則其報告セル書類ハ散

紙斷編モ亦愛護シテ寶閣ニ藏スヘシ曩ニ祝融災ヲ逞クシ六年皇城ノ炎火ニ烏有トナリタルモ猶大使ノ行李ニ原案ヲ存セルハ亦採拾スヘキアリ同年九月大使復命ノ後大使事務局ヲ開キ是ヲ整頓スル一回更ニ八年三月ニ再ニ其局ヲ開キ小官等ヲシテ此事ニ從事セシメ爾來殘片ヲ回祿ノ灰ニ拾ヒ遺文ヲ散佚ノ筐ニ求メ百方搜索ノ方シ盡シ校讐増補欠漏ナキヲ務ムト雖モ猶集成ニ於テハ遺憾ナキ能ハス且當時理事官諸員今ニ要劇ニ居リ齋歸ノ書類盡ク整頓譯述シ難キヲ告ク如是ハ姑ク之ヲ他日ニ付シ本年一月局ヲ結ヒ總計書類四十一冊正副ニシ具シテ進呈ス別紙目錄ノ如シ乃々其正ハ之ヲ太政官ニ藏シ其一ハ外務省ニ下付シ之ヲ永久ニ傳ヘテ照會ニ資セハ國ノ幸福ナリ曰テ謹テ此ヲ以テ具狀ス

明治十年一月

外務大臣 田邊太一

樞少史 金丹之恭

樞少史 久米邦武

大使事務書目

一大使全書

全一冊

一本朝公信

全一冊

一本朝公信附屬書類

全三冊

一大使公信

全一冊

一謁見式

全一冊

一條約談判書

全一冊

一在米雜務書類

全一冊

一在英雜務書類

全一冊

一在佛雜務書類

全一冊

一在佛後雜務書類

全一冊

一回覽日記

全十五冊

合計貳拾七冊

理事官視察官取調書目

一司法省理事功程 十冊

小省米國司法署制

對問筆乘

新約克裁判局署言

一冊

同州懲役場徒囚規約

蘭律小言

論氏英法小言

四冊

加利州典

四冊

見聞筆乘

一冊

一文部省理事功程 六冊

太
次
官

一大藏省理事功程

六冊

小省

米洲聯邦戶籍整定條例

亞墨利加合衆國法律書畧譯

一冊

同外國人歸化之法

合衆國戶籍取調表

一袋第一冊附

由太郡鹹湖府稅則并聞書

米國大藏省職制并慶務手續聞書

一冊

合衆國々稅事務實視錄

紐育府政聞書并諸規則譯

紐育府馬車稅則譯

一冊

勸農見込書

萬國通私法 版本

三冊

一 式部內省 理事功程

一冊

肥田為良
吉原重俊
川路寬堂
杉山一成

一冊

小省
理事大綱 肥田為良報告

外交關係事務調查書 吉原重俊報告

和蘭水理堤防取調之儀二付申牒 川路寬堂
杉山一成報告

一 報 內海忠勝 理事功程 一冊

小省
英國地方事務取調書

一 報 中山信彬 理事功程 一冊

小省
英國地方事務實問板革

清國案内

一 岩山敬義 告 理事功程 一冊

小目 英國サレンシストン農學校大意

同國獸醫學校生徒規則及法度

英倫農業會社

准許狀 准許狀中規條

內 則 議 定

華盛頓府勸農寮職制

同事務章程

一 高等正風 告 視察功程 三冊

小目 工事 一冊

農事 一冊

税法

兌銀鋪畧說

税関規則

華盛頓府勸農局制度及費額大畧

一冊

一 安川繁 告 視察功程 十一冊

小目 英國議事院實見錄 三冊

英國政事緊論 後六冊

英國新聞紙開明鑑記 二冊

共三版本

合計四十壹冊

第一號

對等ノ權利ヲ存シテ相互ニ凌辱侵犯スル事ナク共ニ以
例互格ヲ以テ禮際ノ殷勤ヲ通シ貿易ノ利益ヲ交ユ此レ
列國條約アル所以ニシテ國ト國ト固ヨリ對等ノ權
利ヲ有スルヲ當然ナレハ其條約モ亦對等ノ權利ヲ存ス
ヘキハ言ヲ待サル事ナリ

故ニ地球上ニ國シテ獨立不羈ノ威柄ヲ備ヘ列國ト相聯
并比肩シテ昂低平均ノ權カヲ誤ラズ能ク交際ノ誼ヲ保
全シ貿易ノ利ヲ齊一ニスルモノ列國公法アツテ能ク強
弱ノ勢ヲ制壓シ衆寡ノカラ抑裁シ天利人道ノ公義ヲ補
弼スルニ由レリ是以テ國ト國ト對等ノ權利ヲ存スルハ
乃テ列國公法ノ存スルニ此レ由ルト云ヘシ
今其國ノ人民其國ヲ愛スルハ亦自然ノ止ムヘカラサル

處ナリ既ニ其國ヲ愛スルノ誠アル其國事ヲ憂慮セサル
ヘカラス憂慮既ニ此ニ及フ苟モ之ヲ實務上ニ徴シテ我
國ニ存スル權利ノ何如ヲ審察セサルヘカラス既ニ之ヲ
審察スルニ於テ果ソ其權利我ニ存シテ失ハサルカ或ハ
之ヲ他ニ失シテ存セサルカ能ク之ヲ認メ得ヘシ之ヲ認
メテ我國既ニ對等ノ權利ヲ失ヒ他ニ凌辱侵犯セラレ
例互格ノ道理ヲ得サレハ勉勵奮發シテ之ヲ回復シ其凌
辱ヲ雪キ侵犯セラレサル道ヲ講求スル事其國民正ニ務
ムヘキ職任ニメ其國民タルノ道理ヲ尽スト云ヘシ而
シテ其凌辱侵犯ヲ受ケサル道ヲ講求スル之ヲ列國公法
ニ照シテ其條約ノ正理ニ適スルヤ否ヤヲ考索セサルハ
カラス

夫レ我國海外各邦ト條約ヲ結シ始メ國內ノ形勢如何ソ

ヤ積世鎖國ノ習俗固結シテ開港ノ事ヲ拒ムモノ溜々皆
是ナリ攘夷ノ論ヲ發スルモノ比々皆然リ此レ旧政府擅
權ノ私斷ヲ以テ此全國存亡ニ關係スル一大事件ヲ明白
正大ナル輿論ト戈智勇決ナル處置トヲ以テ其事件ヲ了
局セス其目的一時ヲ糊塗シテ因循歲月ヲ經過スルノ方
略ニ出ス其事情止ヲ得サルノ勢ト雖モ到底官吏ノ懶惰
ト姑息トニ由テ交際上其當ヲ得サルヲ夥多ナルノミナ
ラス貿易上モ亦當然ノ理ヲ尽ス能ハサルモノ亦少ナク
ラス而シテ其間我國内多事ニ由リ強弱ノ勢ニ乗セラレ
彼我權利ノ際限紛乱シテ或ハ主客地ヲ換ル事アルニ至
リ益至當ノ則ヲ失ヒ窮極如何ヲ知サルニ至ラントセシ
ニヨリ政体變革ノ始ヨリ既ニ失ヒ權利ヲ回復シ凌辱
侵犯セラレ、事無ク以例互格ノ道ヲ尽サント欲スト雖

モ従前ノ條約未シ改マラス旧習ノ弊害未シ除カス各國
政府及ヒ各國在留公使モ猶東洋一種ノ國体政俗ト認メ
テ別派ノ處置慣手ノ談判等ヲナシ我國律ノ推及スヘキ
事モ之ヲ彼ニ推及スル能ハス我權利ニ歸スヘキ莫モ之
ヲ我ニ歸スル能ハス我規則ニ從ハシムヘキ莫モ之ヲ彼
ニ從ハシムル能ハス我税法ニ依ラシムヘキ莫モ之ヲ彼
ニ依ラシムル能ハス我自在ニ處置スヘキ條理アルモ之
ヲ彼ニ高議スヘキ莫モ至リ其他凡中外相關係スル事々
件々彼是對等東西以例ノ通誼ヲ竭ス能ハス甚シキハ公
使ノ喜怒ニ由テ公然タル談判モ困難ヲ受ルニ至ル抑對
等國ノ政府ハ在留公使ノ不可ナルモノアレハ公法ニ據
テ是ヲ其本國政府ニ逐ヒ還ス程ノ權ヲ有スルナルニ其
事体如此ノ凌辱侵犯ヲ受ルニ至テハ毫モ對等并立ノ國

權ヲ存スト云ヘカラス以例互格ノ交際ヲナスト云ヘカ
ラス故ニ痛ク其然ル所以ヲ反顧シ分裂セシ國体ヲ一ニ
シ渙散セシ國權ヲ復シ制度法律駁雜ナル弊ヲ改メ專ラ
專擅拘束ノ餘習ヲ除キ寬縱簡易ノ政治ニ歸セシメ勉テ
民權ヲ復スル事ニ從事シ漸ク政令一途ノ法律同轍ニ至
リ正ニ列國ト并肩スルノ基礎ヲ立ントス宜ク従前ノ條
約ヲ改正シ獨立不羈ノ休裁ヲ定ムヘシ従前ノ條約ヲ改
正セントモハ列國公法ニ據ラサルヘカラス列國公法ニ
據ル我國律民律貿易律刑法法律稅法律等公法ト相反スル
モノ之ヲ變革改正セサルヘカラス之ヲ變革改正スルニ
其方法處置ヲ考案セサル可カラス之ヲ考案スルニ之ヲ
實際ニ施行スル或ハ一年ヲ期シ乃至二三年ヲ期スヘキ
者アリテ一朝一夕ニ其事ヲ了スヘキニ非スト考ヘサル

ヲ得ス而ノ條約改正ノ期限来申年五月中即チ西曆千八百七十二年第七月一日ヨリ其議ヲ始ムヘキ明文アリ我政府此際ニ當テ此事アル頗ル盛業ヲ與スヘキ一大機會ヲ得タルモノト雖モ現場ノ形勢ニ由リ其事ヲ督促サレ順序及時限猶豫ナク切迫ニ及フキハ亦困難ヲ受クルノ一大機會ニ當レリト云ヘシ如何トナレハ各國公使ニ此改正ノ議ヲ考案スルモノ各自其國ノ利益ヲ網羅セント目的シ我國ノ政俗公法ニ當ラサルヲ以テ却テ自怨ノ所志ヲ逞スル為メ正大公明ノ理ニ托シ制度法律教宗ヨリ百般ノ諸規則普通ノ公義ニ反セルヲ責メ定期ノ時限ヨリ直ニ普通ノ公法ヲ施行スヘシト請求スヘシ然ルニ事情急速行ヒ難キヲ以テ之ヲ拒辞スルキハ必ス之ニ換ルノ請求ヲナシ終ニ威カノ談判ニ涉リ其弊害ヲ招クモ量

ルヘカラス故ニ姑息ノ改正ハ益々國ノ權利ヲ失フ基トナル事未来ニ考ヘテ判然タリ此レ改正ノ機會困難ヲ受ルノ憂アリトスル所以ナリ故ニ此困難ヲ受クヘキ機會ヲ轉シテ盛業ヲ起スヘキ機會トスルハ樞機ノ一轉回ニアリテ其關係特ニ全權ノ使節ヲ各國ヘ差遣シ一ハ我政体更新ニ由テ更ニ和親ヲ篤スル為メ聘問ノ礼ヲ修シ一ハ條約改正ニヨリ我政府ノ目的ト期望スル處トヲ各國政府ニ報告高議スルニアリ此ノ報告ト高議ハ彼ヨリ論セシトスル事件ヲ我ヨリ先發シ彼ヨリ求ムルヲ我ヨリ彼ニ求ムル所以ナレハ議論モ伸ル處有ニ必我論說ヲ至當ナル事トシ之ヲ同意シ相當ノ目的ト考案トヲ與フヘシ其目的ト考案ヲ採リ高量合議セハ其事ヲ實地ニ施行スル時限ヲ大凡三年ヲ延ルノ談判ヲ整ヘ了ルモ亦至難ノ

事ニアラサルヘシ

此報告ハ商議ハ列國公法ニ據ルヘキ改革ノ旨向テ報告
シ且之ヲ商議シ實地ニ之ヲ我國ニ施行スルヲ要義トス
ルニ由リ其實効ヲ驗知スル為メ歐亞諸州開化最盛ノ國
休諸法律諸規則等實務ニ處シテ妨ケナキヲ親見シ其公
法然ルヘキ方法ヲ探リ之ヲ我國民ニ施設スル方畧ヲ目
的スル亦緊要ノ事務トス故ニ全權ノ使節ハ全權理事ノ
官負何人ヲ附從シ之ニ書記官通譯官ヲ附屬セシメ右全
權理事官負ハ之ヲ各課ニ分テ各其主任ノ事務ヲ擔當ス
ヘシ乃チ

第一課制度法律ノ理論ト其實際ニ行ル、處ト研究
シ外國事務局議事院裁判所會計局等ノ体裁ト現ニ
其事務ヲ行フ景況トヲ親見シ之ヲ我國ニ採用シテ

施設スヘキ目的ヲ立ツヘシ

第二課理財會計ニ關係スル法則租稅法國債紙幣官
民為替火災海上盜難受合等ヨリ貿易工作汽車電線
郵便ノ諸會社金銀鑄造所諸工作場等法規規則ヲ研
究シ及ヒ其体裁ト現ニ行ハル、景況トヲ親見シ之
ヲ我國ニ採用シテ施行スヘキ目的ヲ立ツヘシ

第三課各國教育ノ諸規則乃チ國民教育ノ方法官民
ノ學校取建方費用集合ノ法諸學科ノ順序規則及等
級ヲ與フル免狀ノ式等ヲ研究シ官民學校貿易學校
諸藝術學校病院育幼院等ノ体裁及現ニ行ハル、景
況トヲ親見シ之ヲ我國ニ採用シテ施設スヘキ方法
ヲ目的スヘシ

全權ノ使節及全權理事ノ官負ハ各主任ノ外我國ノ有益

トナルヘキ事ハ凡テ之ヲ研究熟覽スヘキハ勿論ナレハ
海陸軍ノ法律及給料ノ多寡之ヲ指揮スル方法ヲ研究シ
各國有名ノ港津ニ至リ海関ノ實況軍器庫海軍局造船所
兵卒凡所城堡海陸軍学校製錢所等ヲ親見シ且教習ノ所
由ハ最モ緊要ノ監察ナリト注意スヘシ而シテ附屬ノ書
記官ハ其研究スル所ト親見スル所トヲ精細ニ記録シ之
ヲ採用シテ施設スルニ易カラシムルヲ要トスヘシ
右全權使節ヲ各國ヘ差遣スル大畧ナリ其委任ノ章程及
ニ各國ヘノ公書全權理事官ノ職務章程各官負等級職權
ノ際限等ハ其一行ニ係ル官負帳ク其便宜ヲ量リ之ヲ考
定シテ決裁ヲ乞ヒ可ナルヘシ
其使節一行ノ人負ハ別紙ニ附ス

欽差全權使節一行人負

欽差全權使節 一負

同 二等使節 一負

一等書記官 一負

二等書記官 二負

二等書記官ハ會計ヲ專任スヘシ

一等通辨官 一負

二等通辨官 一負

全權理事官 六負

一等書記官 三負

二等書記官 三負

此書記官中通辨ヲ能スルモノ三人ヲ要スヘシ

通辨官

三頁

此外洋學生徒ノ通辨スル者アラハ四五人ヲ附設セシムルモ亦可ナリ

此レ人負ノ大畧ナリ而シテ使節ニ附設スル一等書記官ハ全権理事官ト同等ナルヘシ二等書記官ハ理事官一等書記官ヨリ上席タルヘシ

使節附設ノ通辨官ハ一等ハ二等書記官ト同等二等ハ理事官一等書記官ト同等ナルヲ要ス

第二號

我政府ニ於テ定約ノ年限ニ由リ来申年五月中即西曆千八百七十二年第七月一日ヨリ條約及稅則ヲ改正スルノ議ニ及ハントスルニ由リ爰ニ其改正スルノ目的ト期望スル旨趣トラ明白ニシ且精細ナル陳述ヲナシ其事實毫モ修飾無ク備ニ之ヲ各和親ノ列國ニ報告シ允當ノ考案ニヨリ公平ノ照會ヲナシ各政府ノ信從ヲ得テ其事業ヲノ目的ト期望スル處ニ違ハス能ク成功ヲ奏スル事アルニ至ラシムルハ我政府及ヒ人民ニ關係スル處最モ重大ニソ且緊要ナル事トス

各政府ニ於テ其目的ト期望スル處トラ信シ且之ヲ公平ノ條理トシテ其事業ヲ賛成スル有ルニ至テハ和親ノ誼益厚ク貿易ノ利彌洪ク我政府及ヒ人民ノ獨リ幸ヲ享ル

ノミナラス各國相互ニ往來交通スル人民モ亦其益ヲ得ル基礎トナルヘキ所以ナレハ各政府ニ於テ必ス我政府ノ説ヲ信聴シ更ニ遠慮ヲ其間ニ容ル事ナキハ今ヨリコレヲ豫期セリ

凡事物上ノ實理ヲ推究スルニ輕重比較ノカ平均ヲ得サレハ權衡其準ヲ得ヘカラス苟モ其平準ヲ得サレハ昂低偏傾シテ權衡其則ヲ失フ今國ト國トノ交際人ト人トノ和親對等并立其當ヲ得サレハ猶權衡ノ平直ヲ失フカ如シ交際和親豈能ク平均ノ道ヲ得ンヤ今我政府平均ノ道ヲ得テ交際和親ノ誼ヲ厚クシ永續保全ナラシメントスル勉テ平均ナラシムルノ變革改正ヲ為サハル可ラス既ニ此ノ變革改正ヲナサントスル其原由ヲ推究シ其平均ヲ得サルノ道理ヲ反顧セサル可ラス

今之ヲ反顧スルニ東洋諸國西洋列國各其國體政俗ヲ異ニスルハ更ニ縷説ヲ俟ス此レ其國民開化ノ遲速ニ關係ストイハレ久慣ノ習俗因襲シテ永ク一種ノ政俗ヲナシ列國公法モ之ヲ規準スル能ハス我

帝國日本政府各國ト條約ヲ結ヒシ始メ國內ノ人心開港ノ事ヲ好マサルニ由リ各種ノ難事ヲ生シ列國公法ニ從フ能ハサルヲ以テ各國ノ定約ヲ結ヒ和親ノ誼貿易ノ利ヲ通スルモノ一般ノ公義ヲ遂ケ普通ノ公權ヲ尽ス能ハサルヨリ自ラ別派ノ處置ヲ設ケサルヲ得サルノ勢ニ至リ彼此一致ノ通義ヲ失ヒ交際貿易上ノ權利終ニ平均ヲ得サルノ憂ヲ生セリ
既ニ反顧シテ平均ヲ得サルノ理ヲ推究スレハ我國體政俗ノ異ナルヨリ列國公法ヲ以テ他邦ヲ待シ普通ノ公義

ト公權トヲ以テ他民ヲ處スル能ハサルヨリ如此キ不平均ヲ生セシ所以ニシテ之ヲ正理ニ照シテ不當ノ事ト認ルルハ勉強シテ平均ナラシムルノ方畧ヲ考究シ其國体政俗ヲ变革改正セサルヘカラス今我帝國日本天皇陛下及政府政權統一以來夙ニ各國交際貿易ノ道彼此平均ニ至ルヲ期望シ其理勢变革改正セサルヘカラサル事ヲ了知シ積世因襲ノ陋規弊習ヲ洗滌シ大ニ開國ノ規模ヲ期希マル為メ封建ノ治体ヲ變シテ郡縣トシ拘束セシ民權ヲ復シテ簡易ニ歸セシメ百事更正スル處アリテ國民ノ景況之ヲ前日ニ比スレハ大ニ觀テ改ムルニ至ルト雖モ其事ヲ設為施行スル未タ其年月淺キニヨリ尙变革改正ノ順次逐件ナスヘキモノアリ此條件尽ク改正スルヲ得テ始テ我政府ノ目的ヲ達シ期望スル處ヲ遂ルト云ヘシ

乃チ其條件左ノ如シ

第一我國律中民律貿易律刑法法律等殊ニ西洋各國ノ法律ト大ニ殊ナルヲ以テ何ノ人民モ之ヲ遵守シテ妨礙ナカラシムヘキ目的ヲ定メ其異ナルヲ除キ同キヲ採リ正理ニ適合シテ謬リ無ラシムヘキ事

第二各國人民互ニ相往來居住スル其國法ヲ遵奉スルニ於テハ固ヨリ自由ヲ得ヘキ事ナリ然ルニ地ヲ畫シテ其區ヲ分ツ彼此一致セサルニ似タリ故ニ往來住居ノ規則ヲ確定シ自由ヲ得セシムヘキ方法ヲ設クル事

第三國東西ヲ異ニシ民情亦随テ均シカラスト雖其原性元ヨリ同一ニシテ異ル事アルナシ故ニ教諭ノ道ヲ盛ニシ開化ノ歸旨ヲ一致セシムル方法ノ事

第四彼此法教ノ存スル障害ハ之ヲ除キ異論ナカラ
シムルノ實徴ヲ保全シ相互ニ抵觸ナカラシムヘキ
事

右ノ條件變革改正スルニ於テ國內百般ノ事務之ニ準シ
テ更正セサルヘカラス而シテ或ハ施為先後ノ順序アル
モノアリ或ハ方法所置ノ趣向ヲ案定シテ商議ニ附スヘ
キモノアリ而シテ之ヲ實際ニ施行スル多少ノ時限ヲ費
サハルヲ得サルモノアリ或ハ其法令ノ行レサルカ又ハ
之ヲ拒ムノ徒アルキハ威カヲ以テ之ヲ壓制シ其事ヲ遂
ケヘキモノアリ

此變革改正ヲ行フハ一大事件ナルニ由リ緊要ナル商議
ヲ各邦ニナシ其考案論說ヲ請フハ必要ノ事ト考ヘタリ
各國政府ニ於テ我國政府ノ目的ト期望スル處トヲ賛成

スル為メ要用ナル考案ヲ予ヘ且其論說ヲ聴シノ以テ此
事ニ同意シ我國ヲノ開化ノ域ニ登進セシムル事ニ協力
シ厚ク商議ヲナシ其所置ヲ十分施行シ得ヘカラシムヘ
シ
而シテ其所置ヲ十分施行シ得ヘカラシムルニハ其時限
ヲ豫算シテ我政府ニ與ヘサルヘカラス此レ我政府大ニ
後ニ期スル處アルニヨリ其事情ヲ陳述シテ條約改正ノ
期ヲ延ルノ請求ヲ敢テ各國政府ニナスモ亦不得已ノ所
以ナリ

第三號

條約改定延期斷之為使節可被差立起原ノ條理件々御下
問ノ書中固ヨリ異議無之早々人負却撰奉癸程ノ準備被
仰出度存候但三年定限立候儀ハ将来ノ景況ニ由リ萬一
失見モ有之候ハ、指支候ニ付先使節一行帰國我政府熟
議ヲ遂候上右期限更可申入方可然歟且學校兵學宗教等
ニ至ルマテ同時研究之趣相見候ハ、右ハ條約改定ノ急
務ニ無之其中法律理財交際ノ三科式ケ急務ニ有之候間
使節一行中ニテ研究可致儀ト存候外ニ償金一條ハ猶取
調更ニ相伺可申候此段申上候以上

辛未九月十五日

山口外務少輔

寺島外務大輔

岩倉外務卿

正院

御中

追テ本文學校兵學宗教等ノ儀云々ノ次第ハ全ク職掌ニ
而申入候ヘ此儀ハ別段見込可申上候尚又使節人負何
分ニモ速ニ御取極有之度存候也

第四號

晨ニ皇威ヲ張り萬國ト峙立ノ 聖旨有テ維新以來外交
略面目ヲ改ムル如シト雖モ國權ノ進步變異スル所無キ
カ幸明申ノ年定約改正ノ機ハ國權ノ振不振 聖旨ノ達
ト不達トニ際シ實ニ千歳ノ一大機ト云ヘシ今御下問ノ
論理ヲ協議スルニ先ツ形勢ヲ審ニシテ建國ノ大經ニ涉
リ時機ニ投シテ進取ノ緩急有為ノ規模充備スト云ヘシ
間然スル處ナシ

我國東洋環海ノ地ニシテ富強ノ基礎ヲ立テ海外諸國ト
 比肩并馳セント欲セハ船艦ノ設ケナカルヘカラス水軍
 ノ備ナカルヘカラサルハ固ヨリ言ヲ俟サルナリ而シテ
 之ヲ設ケ之ヲ備ル其方法ヲ精究シ其施為ヲ審考セント
 欲ス其規範法律ニ於テハ之ヲ其書ニ徴シ之ヲ其人ニ質
 シテ其要領大旨ヲ得ヘシト雖凡其實際実務ニ至テハ親
 見熟察スルニ非サレハ何ソ能ク其精細微密ヲ尽スヲ得
 シヤ依テ龍驤日新ノ二艦ヲ發シ特ニ技術秀技ナルモノ
 及ヒ才俊ノ少年成器ニ堪ユヘキモノヲ撰ミ衆組セシメ
 而シテ運用測量器械等ノ諸科ニ至テハ或ハ歐人ノ其技
 ニエミナルモノヲ雇使シ以テ各國有名ノ諸港津ニ至リ
 左ノ件々ヲ親見熟察シテ其方法ヲ考究スルヲ要ス

港津海關砲台ノ制置

海軍學校

造船場

製鍊所

海軍局

水兵屯所

海軍編次ノ法

軍費支給ノ法

軍器庫

燈明台浮木瀬印ノ法

海軍會計ノ規則

航海諸律

郵船ノ法

凡ソ此等ノ件々各國異同アルヘシト雖モ參互研究シテ
採用スヘキ考案ヲ立テ然シテ其技術ニ至テハ才俊少年
ヲ留メテ然ルヘキ國ノ學校ニ入レ習學セシムヘシ
此ノ親見熟察ヲ了ラハ各國海軍及其規模ヲ實地実務ニ
徴シテ我國海軍ノ規模ヲ建立スル基礎タルノミナラス
其航海ノ人真大ニ見聞ヲ廣メ更ニ知識ヲ増進スルハ勿
論ニテ技術モ亦進歩スル少トモス

兵部省

今般水軍設備實地考覈ノ為ノ龍驤日新二艦各國津港へ
被差向候條衆組人負ヲ始諸事取調へ可伺出事

第六號

佛公使へ御内見ノ節勅詔

我國政体一新シ外交ノ誼モ亦日ヲ逐テ親密ナリ依テ各
國政府へ聘問ノ禮ヲ修メ交際ノ情誼益敦カラシメン為
メ特ニ重臣ヲ各國へ派出シ其禮ヲ修メシメントス然ル
ニ各國ト取結タル條約改定ノ期既ニ近キニアリ我内地
ノ改正大ニ之ニ關係スルヲ以テ併テ其事ヲ商議セシメ
ントス幸ニ汝ニ托シテ朕カ意ヲ大統領ニ傳へ使臣等述
ル處ノ意ヲシテ達セシメヨ

十月四日參朝

第七號

大隈參議殿

岩倉外務卿

昨日米國公使へ別紙ノ通相達置候間為御心得寫差進
候委曲右ニテ御承知有之度候也

辛未十月五日

以手紙致啓上候然者過日御面晤ノ節御内詔ニ及置候通
我

天皇陛下ニ於テ貴國ヲ始メ歐洲結盟各國ニ聘問之使節
被差遣一新以來我政府懇親ノ真情道説及ニ現今將永交
際ノ着眼無伏藏談判為及度折柄閣下御帰國ノ免許貴政
府ヨリ有之候哉傳聞致シ候彌左様ニ候ハ、我使節貴國

都府到着ノ御閣下ニモ御在都ニテ我國近來ノ政体時勢
閣下御見聞之實況御申立ニモ相成候ハ、我使節談判ノ
趣ノ證左トモ相成多少都合宜カルヘシト存候既ニ英國
御耳曼公使モ歸國中ニ有之佛國公使モ不日歸國可被致
由何レモ使節差遣候節ノ便宜可相成ト存候事ニ付貴國
ニモ右同様閣下御在都ノ時ヲ得候ハ、無此上好機會ト
存候右御様子伺度如此御座候以上

辛未十月四日

岩倉外務卿

デロング閣下

第八號

特命全權大使

右大臣

岩倉 具視

特命全權副使

参議

木戸 孝允

大藏卿

大久保利通

工部大輔

伊藤 博文

外務少輔

山口 尚方

一等書記官

外務大記

塩田 篤信

外務少丞

田邊 太一

福地源一郎

文部中教授

何 禮之

二等書記官

外務大記 柴田 昌一

兵部省忠仕 小松 濟治

米田桂二郎

外務少記 渡邊 洪基

第九號

特命全權大使

皇上ニ代テ國事ヲ辦理決判スル權ヲ有ス

特命全權副使

大使ニ副ス

一等書記官 四等

使事ヲ代理スル權ヲ有ス

文書法案通辨會計ノ事務ヲ分掌又ハ兼任ス

二等書記官 六等

一等書記官ニ亞シ

職掌前ニ同シ

三等書記官 八等

職掌前ニ同シ

四等書記官

十一等

前二同シ

所屬士官

本官ノ等
二任ス

○

○理事官

等級ハ本官ニ從
ヒ之ヲ定メス

一科ノ事務ヲ擔當辦理スルノ權ヲ有ス

書記官

二等級前

理事官ニ代理シ及ヒ其事ヲ參判スル權ヲ有
ス

皇使一行ノ書記官ヨリ之ヲ兼帶シ又ハ特ニ

附從スル有ヘシ

附屬士官

會計ハ皇使ノ書記頭之ヲ總括シ各理事官ハ各地

ニ分在セルヲ以テ其書記マシハ附屬ノ士官之ヲ
任スヘシ

第十號

十月八日木戸参議へ渡ス

各國公使へ

以手紙啓上致シ候然者我

天皇陛下即位以来和親ノ各國ニ未タ聘問ノ礼ヲ修メサ
ルヲ以テ右大臣岩倉具視ヲ特命全權大使トシ参議木戸
孝允大藏卿大久保利通工部大輔伊藤博文外務少輔山口
尚方ヲ特命全權副使トシ貴國及ヒ各國ニ派出シ聘問ノ
禮ヲ修メ益々兩國親好ノ情誼ヲ厚クセント欲ス然シテ
各國ト取結タル條約改定ノ期限近キニ在ルヲ以テ右使
臣派出ノ便ニヨリ併テ我政府ノ目的期望スル旨ヲ貴國
政府及各國政府ニ陳述シテ具考案ヲ乞ントス抑我政府
ノ目的期望スル主旨ハ各國和親ノ交際ヲ敦篤ニシ永世
保續セシメントスルニ在リ而シテ之ヲ保續セシメント

スル開化ノ各國ニ行ハル、ノ諸方法ヲ則リ内地ノ改革
ヲ盡メ同一致ニ帰セシメサル可ラス之ヲ同一致ニ帰セ
ントスル我政府ノ腹心ヲ披陳シ貴國政府及各國政府ノ
考案ヲ諮詢シ其方法ヲ實地ニ試験習學セシメ適宜允當
ナルヲ採テ之ヲ我國ニ舉行スル基礎ヲ圖ラントス故ニ
我大使帰國ノ後其実践目撃スル處ト貴國政府及各國政
府ノ考案スル處トヲ審考シ然ル後條約改定ノ議ニ及ハ
ントスサレハ其間費ス處ノ年限ヲ延ルハ己ヲ得サルノ
請求ニテ又之ヲ貴國政府及各國政府ニ要セサルヲ得ス
此レ今般大使ヲ派出スル大旨ナリ閣下能ク此意ヲ允諾
シ貴國政府へ通報シ懇切ノ周旋ヲ望ミ候尤大使一行人
員回歷ノ順次并開帆日限等ハ追テ可申進候

第十一號

大日本國天皇敬テ威望隆盛友誼親密ナル

某國皇帝陛下ニ白ス朕天祐ヲ保有シ萬世一系ナル皇祚
ヲ踐ミシ以來和親ノ各國ニ未タ聘問ノ禮ヲ修メサルヲ
以テ爰ニ朕カ信任貴重ノ大臣右大臣正二位岩倉具視ヲ
特命全權大使トシ參議從三位木戸孝允大藏卿從三位大
久保利通工部大輔從四位伊藤博文外務少輔從四位山口
尚方ヲ特命全權副使トシ之ニ全權ヲ委任シ貴國及各國
ニ派出シ聘問ノ礼ヲ修メ益親好ノ情誼ヲ厚クセント欲
ス然シテ各國ト取結タル條約改定ノ期限未申年五月即
西曆千八百七十二年第七月ニ在ルヲ以テ右使臣派出ノ
便ニ由リ併テ朕カ目的期望スル旨ヲ貴國及各國ニ陳述
セシム抑朕カ目的期望スル主旨ハ各國和親交際ノ情誼

ヲ敦篤ニシ之ヲ永世保續セシメントスルニアリ而シテ彼
我政俗相異リ人民性情一ナラサレハ何ソ能ク其目的期
望ヲ達スルヲ得ンヤ苟モ之ヲ達セシラ欲ク文明ノ各國
ニ行ル諸方則ニ則リ同一致ナラシメサル可ラス之ヲ同
一致ナラシメント欲ス内地ノ諸制度列國公法ト相矛盾
スルモノハ之ヲ改正セサル可ラス然レモ久慣ノ習俗因
襲ノ旧制一時ニ釐正周到ナル能ハス諸制度未タ尽ク改
正ニ至ラズ随テ各國交際ノ事業未タ盛大ニ至ラズ之ヲ
シテ尽ク改正シ列國公法ニ照スト雖モ缺ルコト無ク各
國交際貿易上ニ其實效ヲ示スニ至ラシメントスル其方
法宜ク實際ニ行ル文明各國ノ成法定規ヲ標準トシ之ニ
則ルヘシ故ニ朕カ腹心ヲ披テ之ヲ貴國及ヒ各國ニ諮詢
シ其考案ヲ乞ハシム而シテ其考案ヲ實地ニ試驗習學シ

適宜允當ナルヲ採テ之ヲ我國ニ舉行スル基礎ヲ圖ラシ
メ朕カ使臣歸國ノ後親ク其實踐目撃スル旨ヲ聽キ貴國
及各國ニ在リテ其考案スル處ヲ參酌シ然ル後條約改定
ノ議ニ及ヒ前ニ述ル處ノ目的期望ヲ達セントス故ニ其
間費スル年限ヲ朕カ國ニ與ヘン事ヲ貴國ニ望ム右ハ
疾ニ高議スヘキノ處國內多事遷延今ニ至ル亦已ヲ得サ
ル處ナリ此レ今般使臣ヲ派出スル旨趣ニテ此使臣等ハ
朕カ貴重信任スル所ナレハ陛下能ク其言ヲ信聽シ之ヲ
寵待榮遇セラレン事ヲ望ミ且切ニ陛下ノ康福貴國ノ安
寧ヲ祈ル

右大臣ノ譯ハ「ミニストルステイト」ニテ可然哉或ハ「ワイ
スパライムミニストル」相譯可申哉

參議ハ「メンフルスオフコンシイル」ニテ可然哉

特命全權大使ハ「アンハセトル」ユキツストロージナレニ
テ相當リ可申

同副使ハ「ワイスマンバセドル」ノ字義ニ當候處歐洲各國
ノ條例ニ因リ候時ハ副使ノ例無之尤ニ等使節イヌボー
イセキストロージナレミニストルフレニボタシシヤ
レノ之例ハ有之候處兩條ノ譯字何レヲ採用候テ可然哉
後例トモ相成候事ニ付何レモ御指揮ヲ仰キ申度此段至
急御評決被下度今午後二字前米國公使へ書簡差送可申
ニ付即刻御指圖可被下候以上

右大臣岩倉具外

参議

御中

第十三号

右大臣ノ譯ハ「ワイスプレジテンオフミニストル」ト相譯
シ可然歟

特命全權大使并参議ハ御申越ノ通ニテ可然

副使ハ「ワイスアンバセドル」ニテ可然歟

右御答ニ及ヒ候也

辛未十月十日

参議

右大臣殿具外

第十四号

御約書

大正
政
備

書記官等級左ノ通可心得事

特命全權大使

一等書記官 官等四等

二等書記官 同 五等

三等書記官 同 六等

四等書記官 同 七等

五等書記官 同 八等

理事官及随行官員ハ本官ノ等級タルヘキ事

辛未十月廿日 太政官

十月廿二日

陸軍少將	山田 顯義
侍從長	東久世通禧
司法大輔	佐々木高行
戸籍頭	田中 光顯
文部大丞	田中不二麿

理事官トノ歐米各國へ被差遣候事

文部大助教	池田 政懋
-------	-------

外務大録	安藤 忠経
------	-------

今般特命全權大使歐米各國へ被差遣候ニ付四等書記官
トシテ随行被 仰付候事

式部助	五辻 安仲
-----	-------

外務大記	野村 靖
------	------

神奈川縣大参事内海 忠勝

今般特命全權大使歐米各國へ差遣サレ候ニ付随行被仰付候事

宮内大丞 村田 経満

今般東久世侍從長歐米各國へ被差遣候ニ付随行被仰付候事

戸籍頭 田中 光顯

特命全權大使會計兼務被仰付候事

租稅權助 若山 儀一

檢査大属 杉山 一成

租稅權大属 富田 命保

阿部 潜

今般田中戸籍頭為理事官歐米各國へ被差遣候ニ付随行

被 仰付候事

文部中教授 長與 秉經

正七位 中島 永元

今般田中文部大丞理事官トノ歐米各國へ被差遣候ニ付随行被仰付候事

文部中助教 近藤 昌綱

同 今村 和郎

内村 良藏

右同文 但被仰付ニ付作ル字

造船頭 肥田 為良

理事官トノ歐米各國へ被差遣候事

鐵道中属 瓜生 震

今般肥田造船頭理事官トノ歐米各國へ被差遣候ニ付随

行申付候事

兵部大教授 原田 一道

今般山田陸軍少將理事官トノ歐米各國へ被差遣候ニ付
随行被 仰付候事

林 董三郎

今般特命全權大使歐米各國へ被差遣候ニ付二等書記官
トノ随行被 仰付候事

川路 寛堂

今般特命全權大使歐米各國へ被差遣候ニ付三等書記官
トノ随行被 仰付候事

司法少判事 平賀 義質

司法少判事 岡内 重俊

司法少判事 中野 健明

長野 文炳

今般佐々木司法大輔為理事官歐米各國へ被差遣候ニ付
随行被 仰付候事

正四位 清水谷 公考

魯國留學被 仰付候事

大藏省等忠仕 沖 守固

今般田中戸籍頭為理事官歐米各國へ被差遣候ニ付随行
被 仰付候事

少議官 高寄 豊誓

少議生 安川 繁成

高寄少議官随行

魯國留學被 仰付候事

從四位

坊城 俊章

從五位

松崎 延九

外國勤學被 仰付候事

万里小路秀九

佛國留學申付候事

岩下長十郎

律學修業トノ佛國ハ差遣候事

中江 篤助

河内 宗一

魯國留學申付候事

平田 範靜

燈臺權大属

藤倉 見達

工學質問トノ英國ハ差遣候事

正五位

武者小路實世

獨乙國留學被 仰付候事

從四位

前田 利嗣

英國留學被 仰付候事

日下 義雄

米國留學申付候事

從五位

香川 廣安

從三位

高辻 修長

從五位

鳥居 忠文

右自費洋行之分

大使一行并理事官隨行等會計出納取扱振別紙之通
被定候條一同、為心得相達置可申候也

享永十月

正院

特命全權大使

御中

追テ海外出張ニ付而之御達類ハ自今大使ヨリ理事
官及隨行之人負ヘモ御達可有之事

一使節官負ノ外各省出張ノ官負支度料日當御手當亦定
則ノ通可給與事

一使節并各省出張ノ官負旅費ノ儀ハ其現地ニ臨ミ出納
掛官負ヨリ可支給事

但御用都合ニヨリ他方へ相分レ候歟又ハ滞在等ノ
向ハ旅費ニ係リ候入費凡積ヲ以テ受取退テ勘定書
ヲ添遣拂可申立事

一使節并各省出張ノ官負其公事ニ属候入用ハ其趣旨ヲ
一々申談シ出納掛ヨリ受取遣拂ノ上ハ證書等相添同
掛へ可申聞事

一同上私事ニ属シ候入費ハ一切自費ハ勿論ニ候へ其不
得止情故有之事實指支候向ハ其趣ヲ委曲申請シ一時
繰替持借ノ儀モ可有之右出納掛ヨリ其時々證書ヲ大

藏省へ相廻シ留守中被下候月給ヲ以差引返納ノ事
一同上縦ニ公事ニ属シ候費用タリトモ其時々不申立時
日相立且證書等無之向ハ官費ニ不相立事
但不得止事情有之致遅延候分ハ其旨出納掛へ申入
精細點檢出来候ハ、格別ノ事
一同上私事ニ係リ候費用ヲ公費ノ如ク申成シ受取候向
ハ其者ハ申ニ及ハス出納掛官員モ越度タルヘキ事
一公私混淆イタシ候勘定向ハ委曲出納掛へ申入検査ヲ
受ケ官私ノ分別明ニスヘシ若不適當ノ渡方等有之時
ハ出納掛官員ノ責タルヘキ事

第十八号

十月廿四日外史ヨリ達ス

今般歐米各國へ被差遣候ニ付使員一行支度料別段手當
月手當左之通被下候條一同へ可相達事

正院

特命全權大使

特命全權大使

支度料

九百兩

一時限

別段手當

六百兩

同新

月手當

五百兩

但從前ノ日當ハ不被下船賃賄代
其外ハ都テ旅費規則通ノ事

同副使

支度料

五百四十兩

一時限

別段手當

五百兩

同新

月手當

四百兩

但前同新

一等書記官

支度料

三百七十五兩

一時限

別段手當

百五十兩

同新

月手當

二百五十兩

但前同新

二等書記官

支度料

二百五十兩

一時限

別段手當

百兩

同新

月手當

二百兩

但前同新

三等書記官

支度料

二百五十兩

一時限

別段手當

百兩

同新

月手當

百七十兩

但前同新

四等書記官

支度料

百八十兩

一時限

別段手當

七十兩

同新

月手當

百七十兩

但前同新

理事官及随行者ハ本官等級ニ應シ旅費規則ニ照準シ
可被下事

第十九号

十月廿四日外史ヨリ達ス

大藏省

今般歐米各國へ被差遣候大使一行支度料別段手當月手
當左之通被下候条其旨可心得事

辛未十月廿四日

太政官

別紙前同文言

一今般歐米各國へ被差遣候使節供連ノ儀大使ハ二人副
使ハ一人宛現實召連候分ハ下等ヲ以テ船賃并船中賄
料旅竈料ハ下賜支度料日當御手當金ハ不下賜其餘書
記理事官等ハ從者召連候儀不相成事

一月給并旅費ノ儀ハ三ヶ月分當地ニテ取越相渡其餘ハ
彼地ニテ渡シ方致シ候積ニ付右ノ外當地ニテ立替金
等渡シ方ノ儀ハ不相成候事

右之通相達候事

辛未十一月

太政官

一租稅之事

一出納之事

一勸農之事

一戶籍之事

一民產調之事

一會社之事

右者今般理事官トシテ歐米各國ハ被差遣候ニ付本省ノ
事務研究習学仕度目的ニ御座候間此段申上候以上
辛未十月廿五日 戶籍頭田中光顯

正院

御中

今般各國ニ理事官トシテ差遣サレ候ニ付テハ本省ノ事務研究習学致スヘキ件々目的相立申出ヘキ段奉畏候抑此度全權公使始諸理事官各國へ却遣シ相成候儀素ヨリ深キ

聖旨ノ在ル處ニシテ天地ノ公理ニ基キ萬國ノ公法ニ依リ速ニ各國ト平行對立シ諸務挙テ皆各國ノ如ク海軍英米ヲ蔑シ陸軍普佛ヲ凌キ實ニ世界中匹似スル者ナカラント欲スルナラント謹テ奉忍察候然則理事官ハ則省中萬務ノ理事官ニ候哉又一二要件ノ理事官ニ候哉定テ特命モ可有之ト奉存候ヘモ茫乎無涯ニテハ自カラ其任ノ限ヲ知ルヲ得ス謹テ此旨ヲ伺ヒ候伏惟今兵部省中陸軍事務ニ於テ一々切ナラサル者ナシ就中參謀局軍務局給養

局ノ事務最モ切要ナリトス然レ臣性魯鈍加ルニ年月
限リアリ一科ト雖モ焉ソ能ク学フヲ得ンヤ況ヤ此三科
ヲ學フヲヤ伏テ願クハ臣ニ賜フニ三科ノ大概ヲ了知ス
ルヲ以テ期トシ普佛ノ間ニ在留スルヲ得セシノハ臣不
堪感喜ノ至ナリ自今後内外相助ケ各省互救文武跛行ノ
憂ナク諸務并ニ進ミ益々公憲ヲ固クシ十目十指速ニ文
明開化ナラン事ヲ希望臣頭首再拜謹白

辛未十月廿八日

陸軍少將山田顯義

歐米各國ニ於テ研究習學可仕件々左ニ奉申上候
一蒸氣諸機械製作之事

一諸製造所會計簿冊仕組方之事

若餘暇有之節

一水中建築之事

一家屋造営之事

一造船之事

右之通御座候以上

辛未十月廿七日

造船頭兼製作頭肥田為良

正院

御中

- 一帝國帝權之差等
- 一親兵之休裁并年費
- 一帝王公務之外年費定額
- 一海陸軍巡視之休裁
- 一帝王貴族交際接見之式
- 一公使謁見之式
- 一內廷殊恩謁見之式
- 一帝王他國巡行鹵簿
- 一內國遊行之鹵簿
- 一太子諸王取扱之等差并入學之式
- 一皇后休裁并後宮妃婢之負數
- 一帝王學課日用政務之措置

一 師傅之接遇侍醫侍臣之撰舉

一 帝居及後宮之模様

一 帝王服飾并常膳之品

一 大禮遊宴音樂等之式

一 内廷章程吏員并課目給料

右之件々取調可申相伺候也

辛未十月

宮内省

一 帝國帝權之差等

一 親兵之休裁

一 海陸軍巡視之休裁

一 帝王貴族交際接見之式

一 皇華族非役扱振之事

一 在官非役同一謁見等之節之式

一 公使謁見之式 内外

一 内廷殊恩謁見之式

一 帝王他國巡行之鹵簿

一 國內遊行之鹵簿

一 太子諸王取扱之差等并入學之式

一 師傅之接遇侍醫侍臣之撰舉

- 一 帝后及後宮之模様
- 一 帝王服飾并常勝之品
- 一 大禮遊宴音樂等之式
- 一 年中之禮式
- 一 有功之人免官後投振之事
- 一 大臣以下官等ニ應シ禮節之事
- 一 路頭礼節之事
- 一 祖先祭典等之式
- 一 喪并服忌之事
- 右之條々取調可申相伺候也

辛未十月

式部寮

世界奎運ノ旺ナル文化ノ治キ列國規制各異同アルヘシ
ト雖モ教育ノ法ヲ設ケ人心固有ノ良能ヲ發達シ知識ヲ
増益スルニアルノミ苟モ闔州ノ民ヲ驅テ訓誨率令駸々
歩ヲ進ノ開明ノ域ニ躋ラシメント欲スルモノ其規則ヲ
善美ヲ攻覈シ精益求精ヲ求メ之カ宜ヲ得サルヘケンヤ是
ヲ以テ米利堅字漏生其餘英吉利法朗西荷蘭魯西亞等最
モ善美ナルモノニ就キ目今行ハル、景況何如ヲ顧ミ彼
我良否相距ルノ遠キ教育ノ素アルヲ察シ遍ク利弊ヲ洞
悉シ他日實驗ニ從事センヲ要ス今其講究スヘキ目的ヲ
掲ケ之ヲ左ニ開列ス

教育事務局諸規律之事

教育事務局官負職務之事

教育事務局官負給料之事

大學校之事

中學校之事

小學校之事

公學校之事

私學校之事

女學校之事

共立學校之事

學校科目之事

學校造建之事

學校所用器具之事

學校費用支取之事

學校監督之事

學校教官職務之事

學校教官給料之事

學校教官證憑之事

學校生徒年限之事

學校生徒等級之事

學校生徒試藝之事

學校生徒習業序次之事

學校生徒受業料之事

博物府之事

圖書館之事

病院法則之事

貧院法則之事

啞院法則之事

盲院法則之事

癲院法則之事

痴兒院法則之事

其餘本省關涉之件々

要務ノ事項ハ目撃スル所ニ從ヒ瞭知ノタメ勉メテ簿冊
ニ詳記シ後ノ考索ニ便スヘキ事
書籍器具須要ノモノヲ購得シ翻刻模造ノ用ニ供スヘキ
事

田中文部大丞

一萬國公法之中ニテ訟獄ニ拘ハル件々疑惑ノ筋并現行
取扱之手續等見聞

一各國法律之概略并風土人情ニ依テ各法之同シカラサ
ル所等實境見聞

一州法邑法民法等右同新

一司法上局ヨリ下局マテノ權限分界等質問

一司法官職ノ職制選舉ノ方法等質問

一司法ニ屬スル地方官警ハマーシヤル役セリフ役ポリ
ース役デエレ役等之職務制限見聞

一平人軍人訴訟干係之區分

一聴訟之現行實檢并聴訟ノ規則細々ノ處成ル式ケ質問

一鞠獄之現行實檢并鞠獄ノ規則方法等質問

一因獄徒場懲役場等結構規則見聞

一行刑之手續見聞

一代言師代書師公事師ナト唱ル者ノ職務境界

一捕亡取締治安保護之方法等見聞

一立法行法部ニ干涉スル權限之内不明ノ處々問合

一律學校ノ結構規則等

此外外國訟獄內國訟獄裁判內濟顛下ケ身代限リ死流
徒贖罪等件々今般一時ニ手ニ及可申様モ無之ニ付手
間取候分ハ別段取調之目途相立畢竟之處御法全備仕
ラセ候様此節實地ヲ見切相運ハセ候様仕度奉存候

佐々木司法大輔

當縣大參事內海忠勝儀今般特命全權大使隨行歐米各國
ハ被差遣候ニ付テハ開港場ノ事務研究習學可致件々目
的相立可伺出旨御沙汰之趣承知仕候右可取調大休之廉
ハ港規則地所貸渡并地券渡方之方法ポリス規則未濟國
人入籍ノ方法内外人民訴訟裁判之定例及其手数料取立
方規則等ヲ大休ノ目的ニ相立為取調申度奉存候此段御
受旁申上候以上

辛未十一月二日

神奈川縣知事陸奥宗光

正院

御中

大日本國天皇□□敬テ威望隆盛友誼親密ナル□□皇帝
陛下ニ白ス

予天祐ヲ保有シ萬世一系ナル皇祚ヲ踐ミシ以來未タ和
親ノ各國ニ聘問ノ禮ヲ修メサルヲ以テ茲ニ予カ信任貴
重ノ大臣右大臣正二位岩倉具視ヲ特命全權大使トシ參
議後三位木戸孝允大藏卿從三位大久保利通工部大輔從
四位伊藤博文外務少輔從四位山口尚芳ヲ特命全權副使
トシ共ニ全權ヲ委任シ貴國及ヒ各國ニ派出シ聘問ノ礼
ヲ修メ益親好ノ情誼ヲ厚クセント欲ス且貴國ト結ヒタ
ル條約ヲ改正スルノ期近ク來歲ニアルヲ以テ予カ期望
預圖スル所ハ開明各國ニ比シク人民ヲシテ其公權ト公
利トヲ保有セシモン為ニ從來ノ定約ヲ釐正セント欲ス

ト雖モ我國ノ開化未タ決カラス政律モ亦從テ異ナレハ
多少ノ時月ヲ費スニ非サレハ其期望スル所ヲ達スル能
ハス故ニ勉メテ開明各國ニ行ハル、諸方法ヲ擇ヒ之ヲ
我國ニ施スニ適宜妥當ナルヲ采リ漸次ニ政俗ヲ革メ同
一致ナラシメンコトヲ欲ス於此我國ノ事情ヲ貴國政府ニ
詢リ其考案ヲ得テ以テ現今將來施設スヘキ方畧ヲ商量
セシメ使臣帰朝ノ上條約改正ノ議ニ及ヒ予カ期望預圖
スル所ヲ達セント欲ス此使臣ハ予カ貴重信任スル所ナ
レハ陛下能ク其言ヲ信聽シ之ヲ寵待榮遇セラレン事ヲ
望ミ且切ニ陛下ノ康福貴國ノ安寧ヲ禱ル
明治四年辛未十一月 日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ
記シ璽ヲ鈐ス

第廿三号

勅旨

一使命ノ大旨國書ヲ體シ列國條約及稅則ヲ審考シ國ノ
權理ト利益トヲ失ハサル事ニ注意シ談判ノ條理處事
ノ例規單ニ公法ニ照準シ内勅及條約改正ニヨリ目的
ノ件々實際履行スヘキ順序ノ別勅旨ヲ奉シ便宜從事
スヘシ

一馬關償金ノ事ハ便宜談判ヲ遂クヘシ若シ外國人民利
益トナルヘキ事ト交換ノ談判ニ涉ルコトアリト雖モ無
稅又ハ減稅等ノ談判ハ受クヘカラス

但自後開港ノ談判ニ及フ時ハ越前敦賀志摩鳥羽三
陸中ニテ一ヶ所北海道ニテ一ヶ所ノ内一港ヲ開ク
談判約束ヲナシ得ヘシ

一新潟港ヲ開ケ別ニ一港ヲ開ク譚判ニ及フ時ハ前ニ

載ル港ノ内ヲ以テ之ニ換ルノ談判約束ヲナスヘシ
一各國ニ於テ要用ノ人物ヲ選テ之ヲ傭ヒ及器具ヲ購ス
ル事ヲ專決シ理事官ヨリ此事ヲ申請スル時ハ之ヲ可
否判断スヘシ

一條約アル國々ノ内未タ辨務使ヲ派出セサル國ニ辨務
使ヲ置クヲ約束スルヲ得ヘシ而シテ一國ニ一員ヲ
置キ或ハ兩國ヲ兼任セシムルハ便宜考定シテ其状ヲ
具シ報告スヘシ

一各理事官ヲ各國ニ分遣シ擔當ノ科目ヲ研究習学セシ
ムルハ實地談判ノ便宜ニ從ヒ之ヲ定メ及其行事ノ順
序期限等之ヲ指揮スヘシ

一隨行ノ官員其材ヲ量テ之ニ科目ヲ分テ各國ニ留メテ
研究習学セシメ及各國ニ官費ヲ以テ留学スル生徒ノ

分科修業ヲ検査案定シ失行無状ノモノハ歸國ヲ申渡
スヘシ

但留学生徒ノ費用ヲ裁省シ其方ヲ檢定スヘシ

一諸官員ノ行状ニ注意シ訴訟アルキハ之ヲ裁断シ非違
ヲ犯スヲアルカ或ハ奉職無状ナルヲアラハ其状ヲ具
シ歸國ヲ申渡スヘシ

一各國往渡ノ公書談判ノ顛末其時々要旨ヲ書録シ速ニ
之ヲ報告スヘシ

一凡テ談判ノ旨趣副使一同豫議シ獨自ノ專断アルヘカ
ラス

右勅旨件々宜ク遵奉シテ愆ルヲ勿ルヘシ

奉勅

太政大臣三條□□

別勅旨

條約改正ニ付目的トシタル件々ヲ實際ニ履行スヘ

キ順序

一三府五港ニハ各國ノ人民ノ來往ヲ許シタルニ付以來
外國人居留地ノ區別ヲ廢シ彼我人民自由ニ雜居スル
事ヲ許スヘシ

一石ノ外國人等ハ都テ日本政府ノ法律ノ下ニ立テ其地
方官廳ノ規則ヲ遵奉スヘシ故ニ其地ニ居住セント欲
スル者ハ三府五港ノ官廳ニ來リテ何區何街ニ住シ何
産業ヲ営マント欲スル事并ニ生國姓名等ヲ願書ニ認
メテ申立ヘシ是ハ記録局ノ所務タル漸ノ官廳ニ各々
記録局ヲ取設ケ外國人ヲ使用スヘシ

一三府五港ノ外ハ外國人ヲ居住セシメスト雖モ其全國

中ヲ自由ニ旅行スルハ其通権中ニアルヘシ故ニ旅行
ヲ願フ者ハ該ノ官廳ニ来リテ旅行免狀即チ往來切手
ヲ乞フヘシ此往來切手ニハ其地ノ知事之ニ名記スヘ
シ

一日本政府ノ職務ニ使用セラル、外國人ハ即チ日本政
府ノ官員ナレハ右ノ制限ニ拘ラサルヘシ且墾山耕作
等ノ産業ニ付府港外ニ居住スルハ其官廳ノ特許ヲ
得サルヘカラス

一日本地内ニ居住スル外國人ハ日本政府ノ法律制度ニ
服従スルヲ以テ内外人民ノ別ヲ論セス其訴訟ヲ裁判
シ其罪狀ヲ審案スヘキ裁判所ヲ設クヘシ此裁判ノ長
官ハ日本人タルヘシト雖モ其法律ヲ案議考定スルノ
法官ハ各國ノ法律ニ通曉ナル外國人ヲ使用シ日本官

員ト共ニ諸官ノ列ニ加ハラシムヘシ

一東京ニハ大裁判所ヲ設ケ各地ニテ審定シ難キ所ノ訴
訟獄案ヲ持出シテ之ヲ裁判セシムヘシ此大裁判所ノ
法官モ前同様外國人ヲ使用シテ其列ニ加ハラシムヘ
シ

一右ノ裁判所ヲ建ルノ以上ハ外國公使岡士等ハ一切日
本ノ民法刑法ヲ論議スルヲ得ス又其國民タリモ日
本地内ニ居住スル者ノ訴訟獄案ヲ決スルヲ得サル
ヘシ

一右ノ裁判所ニ於テ遵奉スル處ノ民法刑法ハ預メ議決
官ヲ設ケテ之ヲ議定セシムヘシ此議法官ハ外國人ト
日本人ト中ヨリ撰ビ出シ假令ハ某國ノ法ヲ標本トシ
テ之ヲ斟酌シテ決定セシムヘシ目今ノ制度寮ヲ擴充

スルノ理ナリ而シテ其議法官負ヨリ進呈シタル法律
案ハ三院ニテ議定シテ初メテ法トナシ之ヲ公布シテ
裁判所ノ法律トナサシムヘシ

右別勅旨ノ件々宜ク遵奉シテ愆ルヲ勿ルヘシ

奉勅

太政大臣三條實美

大使職任ノ心得

特命全權大使ハ我

皇上ニ代テ外國ニ派出シ國事ヲ辦理シ且之ヲ決判スル
権ヲ有スルハ普通ノ公例タルニ由リ外國ニ於テモ之ヲ
其君主親臨スルト同様ニ認メ各政府貴重ノ待遇ヲ受ケ
各人民ニモ尊敬ノ款接ヲ得ルナリ此レ其人ニ存スルニ
非ス其職任ニ存スル事ニテ全國ノ事皆此ノ一ノ職任ニ
萃ル故ニ自國ノ正理ヲ達シ自國ノ利益ヲ享ケ自國ノ名
譽ヲ廣ムル事モ自國ノ枉曲ニ陷リ自國ノ禍害ヲ招キ自
國ノ耻辱ヲ受ル事モ盡ク其引受トナルハ勿論ナリ是以
テ片言隻辞ノ差謬一動一止ノ疎忽モ全國ノ大事ニ關係
スルニ由リ多言ヲ慎ミ輕躁ヲ警ムハ樞機ノ發真ニ榮辱
ノ主ナルヲ慮レハナリ

機智ヲ條理ノ上ニ托シ狡獪ヲ懇親ノ間ニ弄ス列國ノ交際繁文密節ナル所以ニノ辨理公使ノ措事慎重用意周密ナルヲ要スル所ナリ一顰一笑モ其由未スル原因ヲ推覈シ機ヲ見ル敏捷ニシテ事ヲ察スル明晰ナラサレハ表裏抑揚ノ相反スルモノ有テ其彀中ニ知スシテ陷ルヲアリ此レ最モ注意スヘキ事タリ故ニ列國辨理公使ノ始テ職任ヲ受ルヤ其職權ヲ審ニシ派出スル國ノ情態ハ勿論其外國事務執政ノ才能志行氣質マテモ考察シ談判ヲ遂ケ自國君主及自國ノ利益ヲ取失ハサル事ニ始終注意シ其方便ヲ思索スルヲ肝要トセリ

如此職任ノ重大ナルヨリ大使ノ行住坐卧トモ各國人民ノ觸目スル處ニテ瑣末ノ事モ新聞ニ傳播シ毀譽得失廣論衆評セラル、標的トナリ又其國柄ノ何如ヲ推考スル

表證トモナルヲナリ

右之件々ハ大使職任ノ大畧為心得相達候事

勅旨

各理事官

一 各國ノ内文明最盛ナル國ニ於テ本省緊要ノ事務目今
實地ニ行ル、景況ヲ觀察シ其方法ヲ研究講習シ内地
ニ施行スヘキ目的ヲ立ツヘシ

一 研究講習スル事務ノ科目ヲ分テ及其國ヲ定メ便宜行
事ノ循序期限等ハ特命全權大使ノ指揮ニ從フヘシ
一 随行ノ官員ニ事務ノ科目ヲ分ツハ特命全權大使ノ指
揮ニ由ルト雖モ其分任ノ事務ヲ督シ之ヲ整理スルノ
責ニ任スヘシ

一 本省要用ノ為メ外國人ヲ雇ヒ書籍器具等ヲ購スル事
アラハ特命全權大使ノ決判ニ從フヘシ

一 臨機ノ事ハ凡テ特命全權大使ノ指揮ヲ受ケ所置スヘ

シ

一當務ノ願求研究習学ノ功程等時々書録シテ報告スヘ

シ

右勅旨件々宜ク遵奉シテ愆ルヲ勿ルヘシ

奉勅

太政大臣三條口口

第廿四号

今般歐米各國へ被差遣候使節一行書記官御手當ノ儀此
程御改定御達相成候處二三等四五等ハ同等ノ被下方相
成届候處元米等級被定候上ハ支度料ハ格別月御手當別
段御手當等ハ等級ニ應シ差等相立相當可仕且向來使節
被差遣候節モ右ニ準據致シ下賜可然被存候間更ニ別紙
ノ通御改更相成候様致度尤右ノ趣ハ當省ヨリ直ニ外務
省へモ相達別紙割合ヲ以渡方取計候積ニ御座候此段申
上置候也

辛未十一月三日

大藏少輔吉田清成

大藏大輔丹上 馨

大藏卿大久保利通

正院御中

一等書記官

支度料

三百七十五兩

一時限

別段御手當

百五十兩

同断

月御手當

二百五十兩

但従前ノ日當ハ不被下船賃賄代其外ハ都テ
旅費規則通り候事

二等書記官

支度料

二百五十兩

一時限

別段御手當

百兩

同断

月御手當

二百兩

但前同断

三等書記官

支度料

二百五十兩

一時限

別段御手當

八十兩

同新

月御手當

百八十兩

但前同新

四等書記官

支度料

百八十兩

一時限

別段御手當

七十兩

同新

月御手當

百五十兩

但前同新

五等書記官

支度料

百八十兩

一時限

別段御手當

五十兩

同新

月御手當

百三十兩

但前同新

右之通書記官御手當更ニ被定候事

本文之趣大使並ニ大藏省ハモ相達候事

第廿五号

十一月三日

第六号

米國公使

佛國公使歸國ノ節ト同勅詔

裁

一留學生取締方ニ付大藏省伺

一歐米各地方留學生學費引受人ノ儀ニ付同省伺

一鐵道工學勸工製鍊寮ノ外國人御雇入ノ儀工部省申
立

一書籍器械等買入方之儀司法省伺

一教師御雇入之儀同省伺

一輸入品鑑定者御雇入之儀大藏省伺

一佛蘭西法律書類買入代金之儀司法省伺

右ハ實地ニ於テ便宜可致處置儀ニ候間為心得右書類
相達置候事

留學生取締之儀ニ付伺

別紙歐米留學生取締ノ方法甚得其要候様存候ニ付御採用全權大使ハ其所置御任ニ相成候方ト存候然レ畢竟生
徒ヲ出スノ時ニ方リ能ク其人ヲ精撰シ約スルニ一課ノ
學ヲ以テシ責ルニ其課ノ成ヲ以テシ始ヲ慎ムニアラサ
レハ此方法ノ終ヲ實ニスル事モ難カルヘシ殊ニ注意致
度儀ハ将来生徒詮撰ノ法工藝技術ノ者ニシテ高尚文事
ノ人ニ無之固ヨリ治國修身ノ經律法理論ノ學要ハ最モ
要ニシテ不可不講ノモノト雖レ急ニセサルモ別ニ無害
其地ニ遊テ學ハサルモ其書ニ就テ之ヲ求ノハ祖其大概
ヲ涉獵シテ其綱領ニ達シ得ヘシ技藝ノ事ヲ學フニ於テ
ハ實境ニ臨ミ實事ヲ執リ鍛鍊習熟スルニ非ラレハ必
ズ良エヲ成スヘカラス決シテ精技ヲ極ノ難シ古來吾國

文學ヲ重ニシ技藝ヲ卑シミ候ヨリ工職陋劣百課不舉未
タ一奇機ヲ造リ出リス未タ一工場ヲ築キ成サス終ニ今
日ノ貧迫ヲ致ス方今開明ト称スル歐米ノ國學向淵博知
識高尚律法經理可見ニ至ルモ百工奇麗製作繁昌國家殷
富ヲ致シテ後之ヲ成セシニ可有之然ハ則工藝技術ノ台
國ニ於ルハ要ニシテ又急ト可申故ニ自是生徒ヲ出スハ
專ラ是ヲ先ニシテ詮撰致度事ニ候

○若詮撰ノ法立ツト雖凡約束ノ法嚴ナラサル時ハ名ハ
エトナシ藝ト為スモ其實コ、ニアラサレハ境ヲ出ル即
チ其説ヲ放テ恣ニ其課ヲ轉ス現在歐米生徒ノ内其藝畧
ナカラズ故ニ留学ヲ命スル時○何學何課修業ノ為ノ何
地留学申付候條自是何年ノ間實際研究実事習熟ノ功ヲ
遂ケ何學何課ノ用ニ適シ候様可致事○主課ノ學ヲ勉メ

スシテ肆ニ佗課ニ轉學致シ候者ハ勤怠成不成ニ不拘歸
朝ノ命令可有之事○彼地生徒監督役ハ連月考課狀ノ事
實ヲ檢シ劣レル者ハ放テ帰スノ權アルモノナリ故ニ其
命有之時ハ速ニ歸朝可致事○彼地到着ノ上此書ハ監督
役へ可預置事

○右等ノ條令ヲ掲タル書付ヲ渡シ名實始終通徹致シ候
様約束ノ法嚴肅ニ相立度事ニ候

○右條令ノ如ク約束ノ法相立候共是迄ノ通り各縣自在
ニ生徒ヲ出シ學費ノ送り方區々ニテハ其法モ亦難被行
故ニ公費ヲ以テ留学スル者ハ總テ費金ヲ大藏省ニ管轄
シ是ヲ一箇ニ彼國ニ於ケル學費金引受人へ渡シ置キ其
金權ヲ生徒監督役ニ與ヘ候様致シ度事ニ候

○右ノ議可然ト被思食候ハ、大使へ御命シ既ニ彼地ニ

罷在候生徒ハモ古條令ノ書ヲ為渡且學費金ノ儀ハ別紙
之趣ヲ以御布告相成候様致度存候依之相伺候也
但生徒人撰ノ法并約束法詳令ノ箇條等ハ却一定之上
其主任ハ御命有之度候也

辛未十一月

吉田大藏少輔
升上大藏大輔

正院御中

御布告之趣意

是迄歐米兩國之内ハ公費ヲ以留學申付置候者ハ學費
金差送方総テ大藏省於テ取扱候筈ニ付其年正月ヨリ
之今ハ前年五月中七月ヨリノ分ハ十一月中ト七ヶ月
以前ニ同省ハ可差出事

一以来差出候分モ右同断之割合ヲ以テ総テ七ヶ月以前
ニ同省ハ可差出事

一以来生徒差出シ候節ハ其路費金ノミ亦人ハ相違シ學
費金ハ総テ同省ハ可相渡事

海外ニアル留學生徒ノ為ニ修行ノ方法ヲ設クル
ノ議

方今海外各國ニ留學スルノ生徒數百人ニ至ル其費ス所
ノ費額モ亦尠カラス將來我國ノ開明ヲ進ムルノ基軸
シヘキヲ以テ其費額ヲ供スルナレハ留學生徒モ亦各学
フヘキ所ヲ學ビ習フヘキ所ヲ習ヒ此費額ト時月トノ費
ラ償ハサル可ラス而シテ留學生徒修業ノ實際ヲ探ルニ
大ニ期望スル所ニ異ナルカ如シ普通ノ学科ヲ習フセ
シテ高科ニ涉ル者アリ私ニ教師ヲ求メテ校塾ニ寄ラサ
ルアリ或ハ年々數回其師ヲ換ヘ塾ヲ轉スル者アリ到底
開明ノ實狀ヲ目撃スルヨリ愈々其志ヲ大ニシ其見ヲ高
クスルヲ以テ自ラ良ナリトシ一業一科ヲ專習スルヲ
屑トセス之レ留學生徒等ノ目今ノ弊習ニシテ此弊アル

者大抵十ニ七ハナルヘシ此弊ノ由テ来ル所ヲ案スルニ
生徒ヲ監督スルノ責ヲ任スルノ人ナク又之ヲ嚴約スル
ノ人ナキニ出ツ生徒ノ費額ニ至リテモ多キニ過タルア
リ少キニ過タルアリ各地ノ景況ト生徒ノ勤怠ニ應シテ
異同アルヘキ事固ヨリ當然ナルヘシト思ハル今之ヲ監
督嚴約スルノ方法ヲ設ケスンハ將來生徒ノ成器ヲ得ル
ノ際大ニ損益アラシク既ニ歐米ニアル辨務使ハ此任ヲ擔
當スト雖モ交際事務ヲ司トルヲ以テ之ヲ專務トスルヲ
得ルナラシク幸ニ今般特命全權大使各國巡行ノ機會
ヲ以テ右ノ監督嚴約ノ方法ヲ設ケン事ヲ祈望ス故ニ立
案スル所ヲ左ニ陳述ス

特命全權大使某國ノ首府ニ到着ノ上其府ノ大学士ヲ招
キテ相謀リ全國中ニ於テ有名ナル學士ノ德望アル人々

ヲ撰ミ各々大使ヨリ書送シテ之ヲ招待シ集會ヲナシ日
本ヨリ留學ノ生徒監督ノ事ヲ擔當センヲ依頼スヘシ
諸學士等ハ皆此撰舉ニ應シ自己ノ榮譽タルヲ以テ之ヲ
承允スルヲ必定ナリ於此生徒習業ノ順序監督ノ方法ヲ
相議シ此撰舉ニ應シタル學士等ヲ日本生徒監督役ト名
ク尤モ辨務使並ニバンク留學生徒ノ學費トシテ日本ヨリ
送りタル金ヲ任シテ引受ケ之ヲ
預ルヘキバモ亦此監督役ニ加ルヘシ

監督役連名ニテ各地ノ小學校私塾等ニ至ル迄皆其教官
ニ書送シ日本生徒ハ此監督役ノ定メタル順序ヲ目的ト
シテ教授シ毎月勤怠ト進業ノ功課狀ヲ其校塾ノ教官ヨ
リ監督役ニ出サシムヘシ
始メテ某國ニ到着ノ留學生ハ辨務使ニ申出監督役ノ檢
査ヲ經其習學セント欲スル所ノ目的ニ應シテ監督役ノ

差圖ニ從ヒ某地ノ校塾ヘノ紹介狀ヲ監督役ヨリ落手シ
之ヲ持參シテ其校塾ニ投スヘシ

生徒ノ學費ハ其寄宿シタル校塾教官ノ報告ニ從ヒ監督
役ヨリ毎月之ヲ交付スルヲバシクニ達スヘシ

バンクハ日本ヨリ寄送ノ學費ヲ預リ其渡シ方ハ監督役
ノ差圖ニ從フヘシ

監督役ハ毎月校塾ノ功課狀ヲ得テ日本生徒ノ勤怠ヲ知
リ此功課狀ニ檢印ヲ加ヘテ之ヲ東京ノ大ニ送ルヘ
シ

若シ此考課狀ニヨリテ事實不勉強ノ生徒ニテ成器スヘ
キニ非スト監督役ニテ議定セハ速ニ其生徒ニ歸路ノ入
費ヲ與ヘ之ヲ日本ニ歸スヘシ之ハ監督役ノ議ヲ以テ取
計ノ權トスヘシ

學費ノ増減或ハ増額ヲ勉強ノ生徒ニ與フル等ノ議ハ監
督役ニテ決定スヘシ

右ノ方法ニ依リテ生徒ヲ約束セハ其成器ヲ得ル期ヲ
速ニスル而已ナラス無益ノ費額ヲ減シ懶惰ノ生徒ヲ
逐ヒ各習學スヘキヲ習學スルヲ得ン

政府ニテ此議ヲ善良ナリト許可シ賜ハ、速ニ之ヲ実
施スル事ヲ特命全權大使ニ任シ賜ハン事ヲ祈望ス

歐米各地へ留學生學費引受人之儀ニ付伺

是迄歐米留學生へ學費差送り方不都合之次第モ有之趣
依テ以來ハ「カンフランシスヨ」ヨ「ユールクロント」
同リス「ベルリン」於テ右學費金引受人相命シ左之通取扱
候様致シ度依之相伺申候

一各地在留生へ可送金額ハ夫々横濱表ニテ為替ニ致シ
各地ノ引受人へ可送積依テ各地ノ引受人ヨリ各個一
年ノ定額ヲ月ニ割合萬一為替受取方遲延之節其定額
大ハ操替相渡候様取扱可申事

一右引受人へ手数料トシテ其取扱候金額ノ百分一宛引
段政府ヨリ被下留學生ノ學金ヨリ不引去様取扱可申
事

一為替到着遲延之節操替金致候節ハ相當ノ利息是亦引

段政府ヨリ御拂可相成旨取極可申事

一右引受人ヨリ毎六月會計書大藏省へ為差出候様可致事

辛未十一月

吉田大藏少輔

升上大藏大輔

大久保大藏卿

正院御中

工部省鐵道工學勸工製鐵寮等ニテ可相用機関学家具外
歐洲ニ於テ雇入申度尤給料諸入費トモ概算勘定書差出
置候定格中ニテ相賄候心得ニ付兼テ得御許可申置度此
段相伺候事

十一月七日

伊藤工部大輔

正院御中

今般當省官負洋行致候儀ニ付伺書

司法關係之事務ハ公法國法郡邑民物ノ法ヨリ訴訟刑獄
大小司法官ノ権限等ニ至ル迄件々夥敷儀ニ付今般歐米
滯留中随行之同僚共ハ申ニ不及其他其本國ノ人負并本
邦ヨリ其國々ハ致留學居候書生ノ内ハモ加勢申談多人
数手ヲ分ツテ取調不申テハ間ニ合申間敷且右条々ニ干
渉スル司法急用ノ書籍圖画ノ類并刑獄等ニ必用ノ器械
類ハ見合セ買入不申テハ難叶奉存候就テハ右助勢依頼
候内外ノ人負ハ挨拶仕向ケ并書籍類取入レノ代料等其
時々於彼邦大藏省ハ可申立ニ付同省ハ御達置有之度此
段相伺候也

辛未十月廿九日

司法省

正院御中

教師御雇入之儀ニ付伺書

各國政体ニ基キ諸法律調方取掛リ候ニ付テハ先以那勃
列翁コーテヲ本ニ致シ傍ラ英米等ノ諸法律ト打合セ斟
酌可致ハ勿論ニ候乍併先ッ其目的トスル所不分明候テ
ハ却テ其為ノ紛紜ノ弊害ヲ生シ候條幸ヒ今度當省ヨリ
大輔始メ洋行被仰付候其者共ヘモ皆其心得ヲ以テ教師
ノ儀モ民法刑法訴訟法等ニ委敷人兩三人佛國ヨリ相雇
入度候條此段先以奉伺候也

辛未十月廿五日

司法省

正院御中

輸入品監定者御雇入之儀ニ付伺

運上所輸入品監定者之巧劣ニ依リ大ニ收税ノ多寡ニ相
関候間横濱神戸兩港へ一人宛ノ積ヲ以米國運上所ニ於
テ其筋熟練ノ者相撰御雇入相成候様致シ度御許可相成
候ハ、今般遣歐米御使節ノ内へ右人撰方并給料等ノ定
方トモ諸事可相囑ト存候依之相伺候也

辛未十一月

吉田大藏少輔

升上大藏大輔

正院御中

十一月七日

伺之趣特命全權大使へ其理事官ヨリ申立於実地可
受指揮事

佛蘭西法律書類買入代金却渡ノ儀ニ付伺書
佛蘭西法律書別紙洋書名之通此節洋行之序買入申度候
間右代金凡見込千兩却渡有之候様至急大藏省へ却達相
成度此段相伺候也

辛未十一月五日

司法省

正院御中

十一月七日

特命全權大使へ申立可受指揮事

第廿七号

特命全權大使

今般各國順歷之序左之件々取計可申事

銅錢鑄造器械買入之儀

紙幣製造訛方之儀

辛未十一月

太政官

但為心得大藏省伺書相達候事

銅錢鑄造器械御買入之儀ニ付伺

銅錢鑄造之儀別紙概算比較之通得失了然之次第ニ付決然器械御買上且其筋熟練之者御雇入及彼地留学生之内ヨリ三五名右器械製造中ヨリ其業ニ親炙從事為致成工之後是ト一同帰朝致シ建築并製造之事ニ擔當為致候様致シ度此儀制可相成候ハ、右器械買入方其他共今般遣歐米御便節之向、都テ便宜之権ヲ以テ取計候様可相嘱ト存候依之相伺申候也

辛未十一月

吉田大藏少輔

升正大藏大輔

正院御中

伺之通特命全權大使、相達候事

銅錢鑄造之見込

一五百萬圓ハ	壹錢
一三百五拾萬圓ハ	半錢
一一百五拾萬圓ハ	壹厘錢
合計壹千萬圓	

右ハ鑄造適宜之數ニ可有之今此鑄造之方法勘考候處現今大阪造幣寮ニ於テハ金銀兩貨之鑄造マラ急需ニ相充候儀甚難キ場合ニ付速ニ銅貨ヲ鑄造シテ從前醜惡之小錢ト引換國貨之品位ヲ齊整致候儀ハ所詮所分之手段無之依テ英米兩國之内ニ於テ鑄造致シ候方可然哉ト存候得共尚能ク是ヲ熟考致シ候得ハ鑄造器械御買入別ニ銅貨之工場ヲ興シ製造相成候方更ニ可然哉ト存候依テ其得失ヲ左ニ掲ケ此段相伺申候

壹千萬圓鑄造之時間

今壹秒時ニ付一箇宛ノ錢ヲ壓印スルトセハ一時間ニ三千六百箇一十時間之工ニシテ三萬六千箇ノ數ヲ得ヘシ故ニ壓印機械拾箇ヲ備ル工場ナレハ一日ニ付三拾六萬箇ノ數ヲ造リ一年三百六十日間工作ノ日ヲ三百トシ其製造數一億零八百萬箇ナリ右ニ掲テ銅錢ノ箇數二拾七億ノ總計ヲ此割合ニシテ造ル時ハ貳拾五年ノ業ナリトス若シ貳拾箇ノ壓印器械ヲ備ル製作場ナラハ拾二年半ノ業ニシテ若シ三拾箇ノ機械アルモ猶八年以上ノ時ヲ經過シ今若シ製造ヲ我ニ為サハ人ヲ倍シ時ヲ重子休暇ノ日無之是ヲ造リ時間ヲ縮ルノ得アルヘシ

工作之料

今貳拾五箇ノ壓印機械ヲ備ル製作所トセハ器械一箇ニ

一人ツ、外ニ銅ヲ鑄和シ銅板ヲ作り或ハ圓形ヲ作り或ハ是ヲ運搬シ或ハ蒸氣機關ヲ司ル人或ハ工場ヲ管スル人或ハ書記役小遣等迄總テノ人負ヲ概算スルニ四五十人ヲ下ラサルヘシ其給料ヲ平均シテ一人一日金貳兩ツツト概計スレハ一日ニ付テ百兩ツ、一年三百日ノ總計ハ即テ三萬兩十二年半ニシテ全成スルト見ル時ハ工料ノ總數三拾七萬五千兩也外ニ石炭油薪ノ代其他ノ小賣ヲ合算シテ一年壹萬五千兩ヲ費ストシ拾八萬七千五百兩又製作場及器械ノ損料ヲ一年三萬兩スルハ十二年半ノ總計トシテ三拾七萬五千兩ニ及ヘシ故ニ九十三萬七千五百兩ノ合計トナル今若シ是ヲ自國ニ算セハ工料一日一人金貳分ツ、五拾人ニテ貳拾五兩三百日ニ七千五百兩十二年半ノ合計ニテ九萬三千七百五拾兩ノ數ト

ナル又炭油其他ノ小費ニ於テモ凡三分一ノ数ヲ減シ十
二萬五千兩ニテ充足スヘシ勿論製作場并器械ノ損料ハ
全ク是ヲ入算セサレハ總計貳拾壹萬五千兩也

銅ノ價

壹千萬圓三等ニ分テ壹錢ノ箇數五億此重量九拾四萬八
千七百五拾貫目半錢ノ箇數七億此重量六拾六萬四千百
貳拾五貫目一厘錢ハ十五億箇ナリ此重量ハ即チ三拾六
萬二千二百五十貫目總量百九拾七萬五千二百二十五貫目
是ヲ百六十目斤ニシテ一千二百三十四萬四千五百三十
一斤四ト一今百斤ノ精銅ヲ我ニテ買ハハ金拾六兩ノ價
ナルヘシ是ヲ彼ニテ買フ時ハ百斤ニ付唯金二分ツ、ヲ
増ストマルモ六萬千七百二十二兩永四百二十六文ノ差
アリ外ニ英國ヨリ橫濱迄ノ船運賃一噸ニ付金四兩ト積

此金アリ

リ七萬五千九百六十六噸六 賃三拾萬三千八百六拾六
兩永四百八十文危難請合料元價二百〇三萬六千八百四
十七兩永六百十五文ノ五分ヲ拂フトスルモ拾萬〇二千
八百四十二兩永三百八十文余ノ高トナル故ニ其經費ノ
多寡ヲ比較スルニ左ノ如シ但シ錫ノ事ヲ畧セリ

仮令ハ英國ニ於テ製造スレハ

工作料

一金三十七萬五千兩 炭油其他ノ雜費

一金拾八萬七千五百兩 製作場器械損料

一金三拾七萬五千兩 銅價ノ差

一金六萬千七百二十二兩 永四百 船運賃

一金三拾萬三千八百六十六兩 永四百 危難請合賃

合計

金百四拾万五千九百三拾壹兩永二百八拾文

自國ニ於テ製造スレハ

一金九萬三千七百五拾兩

工作料

一金拾二万五千兩

炭油其他雜費

合計

金貳拾壹万八千七百五拾兩

差引

金百拾九萬千八百八拾壹兩永二百八拾文

右差引残高百拾九万餘ノ金アラハ器械買入之代是ヲ運送スルノ費工場建築器械据付ノ入費極テ是ヲ辨スルニ足ルヘシ器械ヲ有シ賤ヲ出サス工場建築ノエアリテ工人為ノニ利益ヲ増シ工料散シテ商民ヲ利シ併テ人ノ耳目ヲ開キ製産繁富ノ助ヲ為ス然ラハ則前ノ概算當ヲ得

サルモ必ス國家ニ妨害無之トス得失一目瞭了ナラン歟

紙幣製造并錢道建築家御雇入之儀ニ付伺

紙幣製造之事

各舊藩々ニテ製造發行ノ紙幣総テ政府ノ紙幣ヲ以御引
換可相成ニ付テハ即今字國フラクフルトニ於テ製造
ノ紙幣ト同一ノ仕様ヲ以テ先般上野敬介彼地ニ於テノ
約条ニ基キ代價并成工ノ時限等尚實際便宜ノ方ヲ取り
左ノ合數ノ紙幣増製造ノ儀右彫刻師ゴドンドルフ會社
ヘ申付候様致シ度

一紙幣五千萬圓

製造ノ合計

内

貳百萬圓ハ

貳拾圓ノ紙幣

此紙幣數 十萬枚

八百萬圓ハ

拾圓ノ紙幣

此紙幣數 八十万枚

千萬圓ハ

五圓ノ紙幣

此紙幣數 二百万枚

千萬圓ハ

貳圓ノ紙幣

此紙幣數 五百万枚

千五百萬圓ハ

壹圓ノ紙幣

此紙幣數 千五百万枚

五百萬圓ハ

半圓ノ紙幣

此紙幣數 千万枚

紙幣合數

三千貳百九拾万枚

鐵道建築工人御雇入之事

先般御布告之通り東京ヨリ青森迄鐵道御設可相成之處
同地迄ハ山川寡ク平坦多ク橋梁坑道之工之ヲ東海道ニ
比スレハ甚容易ニ可有之殊ニ勉テ簡易ノ製作ヲ旨トシ
經費ヲ省クヲ要ト致シ候ニ付テハ英ノ鄭重ヨリ米ノ簡
便ニ相依候方可然儀ト存候就テハ米國鐵道建築工人之
給料并期限等は亦便宜約定之上御雇相成候様取計度右
之二件御許可有之候ハ、今般遣歐米御使節ノ向ヘ逐次
示談之上製作并雇入共委任可致ト存候依之相伺候也

辛未十一月

吉田大藏少輔

升上大藏大輔

正院御中

書面紙幣製造詔方之儀ハ特命全權大使ハ相達候事

例 對等ノ權利ヲ存シテ相互ニ凌辱侵犯スル事ナク共ニ以